

令和元年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金）の成果及び評価報告書

1. 令和元年度消費・安全対策交付金（食料安全保障確立対策推進交付金：ソフト事業）（令和元年度当初予算分）

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
I 農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	和歌山県	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合 目標値：0%	0%	100%	A	1,603,947	727,600	本事業により、農薬の使用者・販売者に対して、適正な取り扱いをするよう指導を行った。農薬残留調査が終了したことは、本県の特産作物であるさやえんどうの防除薬剤の登録に繋がるものとして期待できる。 今後も引き続き、農薬販売者や使用者への指導に取り組み、不適切な販売及び使用の発生率0%を維持するとともに、本県特産作物の農薬残留検査を実施し、防除薬剤の登録拡大を目指す。
	水産物の安全の確保	和歌山県	貝毒発生監視調査の実施数 目標値：39検体	38検体	97%	A	340,000	170,000	概ね計画通りの検体数について監視調査が行われている。前年度から継続していた二枚貝の採捕・出荷自主規制については、本監視調査により和歌山県貝毒対策方針で規定された解除要件（3週連続規制値以下）が満たされたことが確認された上で、漁業者等に対して解除の通知がされている。これにより毒化した二枚貝の流通が未然に防がれ、水産物の安全性確保に貢献している。 今後も二枚貝の安全性確保を図るため、各海域の漁業実態を踏まえた上で、監視調査を継続していく必要がある。
II 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	家畜衛生の推進	和歌山県	家畜衛生に係る取組の充実度 目標値：103%	98%	94%	A	9,647,903	4,818,400	令和元年度は、国内でCSFが継続して発生し、また近隣諸国におけるASF、FMD、HPAI、LPAIの発生が継続して認められた。本県では、関係機関及び農家への説明会、防疫演習を繰り返し、発生予防と発生時の配備体制の充実を図ることができた。また、家畜保健衛生所においては、管轄の生産者に対して飼養衛生管理基準の遵守徹底を指導するとともに、各種疾病の検査・対策指導を実施した。 伝染病の発生予防対策は継続して実施することが必須であるため、今後も引き続き、家畜衛生にかかわる検査、指導等を実施する必要がある。
	養殖衛生管理体制の整備	和歌山県	養殖衛生管理指導を行った養殖等経営体数の割合 目標値：100%	100%	100%	A	1,704,000	840,000	現段階で水産用医薬品の使用については適正に実施されており、養殖魚への医薬品の残留も認められなかった。今後も安心・安全な養殖生産物の供給を維持するため、巡回指導・水産用医薬品の適正使用指導等に努めなければならない。
	病害虫の防除の推進	和歌山県	IPM実践指標値の現状値からの向上率 目標値：105%	105%	100%	A	2,958,160	1,470,000	本事業の実施により、スイカ、かんきつ、モモ、ウメにおける県内版IPM実践指標の策定、拡充、または検証が行われ、目標を達成することができた。これらのIPM実践指標は、農業者へのIPMの普及推進の有効なツールとして利用することができる。今後、県防除指針に掲載して県内の各指導機関で活用されるよう働きかける。 キュウリ褐斑病に対する残効の長い殺菌剤が明らかになったことから、残効の短い薬剤を長い薬剤に置き換えることで殺菌剤の散布回数削減が図られ、農業環境リスク低減につながる。かんきつでは、パラフィン系展着剤を使用し慣行薬剤の残効性を向上させることにより、散布回数削減が可能であることが実証できた。日本一のかんきつ産地（面積9,556ha）で農薬散布回数の削減を図ることは、農業環境リスクの低減効果が大きい。今後、講習会や広報誌などで成果を紹介し、農薬散布回数の削減を推進する。
			農薬環境リスク低減値の現状値からの向上率 目標値：127回	127%	100%	A	1,700,147	850,000	
重要病害虫の特別防除等	和歌山県	対象病害虫の調査の総回数 目標値：501回	525回	105%	A	370,000	370,000	ミバエ類、コドリンガ、カンキツグリーニング病菌、スイカ果実汚斑細菌病菌及びブラムボックスウイルスの発生は認められず、本県への侵入がないことが確認できた。	
総計・総合評価					98%	A	18,324,157	9,246,000	

目的	目標	事業実施主体	目標値	実績	達成度	評価	所要額 実績 (円)	交付金 相当額 (円)	県による評価の概要
特別交付型交付金									
Ⅱ 伝染性 疾病・ 病害虫 の発生 予防・ まん延 防止	家畜衛生の推進	和歌山県	CSFのまん延防止	CSFのまん 延防止	達成	適正	147,957	73,000	<p>平成31年度は、近隣県でCSFの養豚農場での発生が認められた。野生いのししにおいても、近隣県にてCSFウイルスのまん延が確認された。</p> <p>本県では野生動物の農場内への侵入防止対策として、野生いのししを対象にCSFウイルスの浸潤状況を調査するとともに、養豚農家に対し、飼養衛生管理基準の徹底と防護柵の設置を指導することで、CSFのまん延を防止することができた。</p>
総計・総合評価					達成	適正	147,957	73,000	